

●令和3年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「ガバメントクラウドファンディングーひとりひとりから広がる支援の輪ー」

【学校名・学年】西宮市立瓦木中学校・3年

【氏名】小林 春風

「たった2000円の自己負担で豪華な返戻品がもらえる！お得で素晴らしい制度だ。」僕が最初ふるさと納税に抱いていたイメージだ。僕の家でも昨年ふるさと納税を行った。寄付をしたのは山形県上山市だ。この土地に円もゆかりもなく、応援しているわけでもないが、お米がおいしいと聞いたからだ。こうして僕の家ではただ何となく行っていたふるさと納税だが、今回この作文を書くにあたってふるさと納税について学習し、様々な課題や可能性があることがわかってきた。

そもそもふるさと納税とは、自分の居住する自治体以外の自治体に寄付を行うことでその自治体を応援することができる仕組みだが、2008年にスタートしたふるさと納税は、2010年代、規模を拡大すると共に「いかに還元率の高い返戻品がもらえるか」という過度な返戻品競争に陥った。2019年、総務省は過度な返戻品競争にストップをかけるべく規制を強化。寄付先の選択基準が「還元率」から「質の高さ、体験、交流」へと徐々に変わろうとしている。

そこで僕が興味を持ったのは「ガバメントクラウドファンディング」だ。ガバメントクラウドファンディングとは、返戻品目的ではなく、地域を応援するプロジェクトに共感した人から寄付金を集める行政が実施するクラウドファンディングだ。コスパの良い返戻品目的ではなく、自治体の課題解決に寄付者の意思を反映させるガバメントクラウドファンディングは、返戻品をもらって終わりではなく、応援したい自治体が活性化する課程を見たり、応援したプロジェクトを確認するために現地を訪れるなど、持続的に寄付者と自治体の関係性を創り出す。観光や地域PRと同様に、ふるさと納税は目的ではなく手段だ。体験、交流を創出することで、「関係人口や移住者を増やす」「地場産品を都市圏でPRし、消費者を増やす」「地域の雇用を創出する」等々、様々な地域の課題を解決する。

僕が住む西宮北口は、住みたい街ランキング4年連続1位に選ばれ、年々人口が増加しているが、同じ兵庫県でも中部や北部では人口が減少の一途を辿っている地域もある。そこでガバメントクラウドファンディングの一例として、中でも急激に過疎化が進んでいる宍粟市繁盛地区では、「山間部の小学校跡をリノベし、未来を創るビジネスを多角的に企画推進する！」と題して寄付を募り、里山の廃校を自然体験型観光やバイカーなどの近隣観光の拠点とし、地域を活性化すべく、まちづくりに努めている。

こういった各地域ごとの課題をふまえたまちづくりを応援するために、僕の家でもこれからはただなんとなくふるさと納税を行うのではなく、なぜふるさと納税を行うのか、明確なビジョンや目的のあるふるさと納税を目指して家族と話し合いたい。